

高圧で電気を受電している建物の感電災害を防ぐために

◆建物工事における電氣的トラブルが多発(内2件は感電災害)

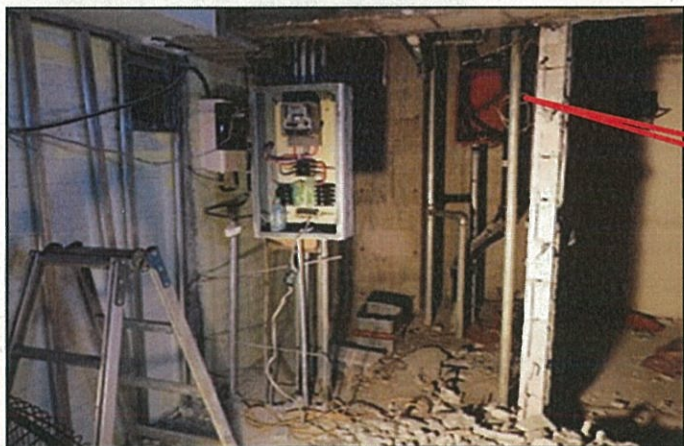
■事例1: アンテナ工事中に高圧充電部に接触して感電



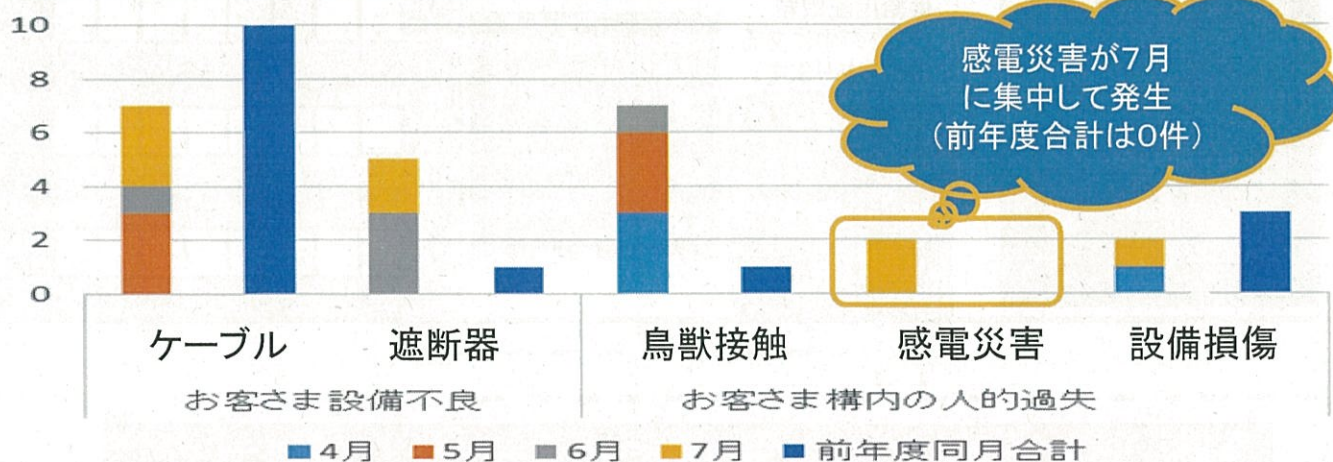
■事例2: 建物塗装作業中に高圧充電部に接触して感電



■事例3: 建物解体中にケーブルを切断して、地絡し感電の恐れ



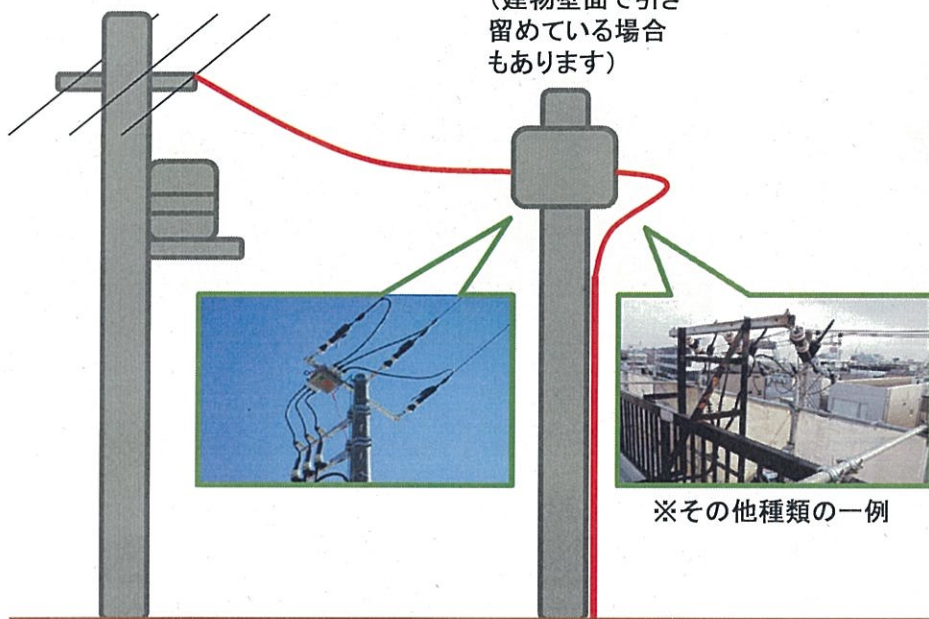
◆H28年度(4~7月)東京23区における電氣的トラブル発生状況



◆引込が架空線の場合の例

- ・建物の電気が停止していても、電気室まで充電中である可能性があります。充電中の設備に接触、もしくは、損傷を与えることにより、感電する可能性があります。

お客さま構内柱
(建物壁面で引き
留めている場合
もあります)

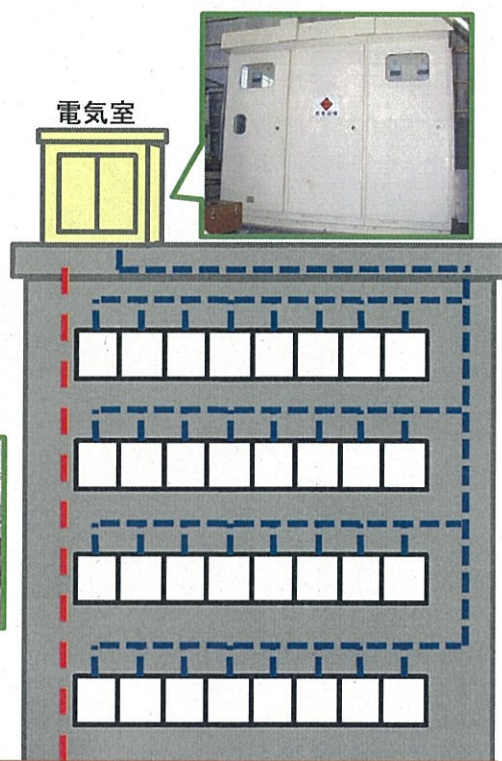


※その他種類の一例

ここが危険なポイント

赤の実線・破線は6600Vの高圧の電気

(青の破線は停止中のケーブル)

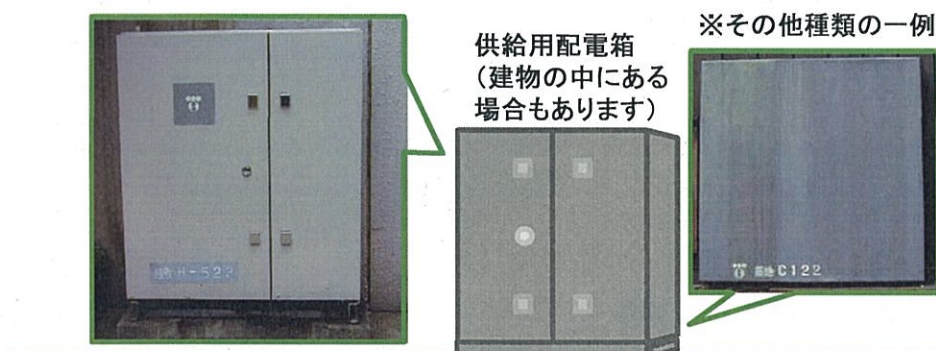


◆引込が地中ケーブルの場合の例

- ・建物の電気が停止していても、電気室まで充電中である可能性があります。充電中の設備に接触、もしくは、損傷を与えることにより、感電する可能性があります。

供給用配電箱
(建物の中にある
場合もあります)

※その他種類の一例



建物工事の際は、電気主任技術者さまへご相談下さい

